

化学・生物総合管理の再教育講座(講義内容)

後 期

科目No.	158	科目名	化学物質総合管理法第4		サブネーム	環境政策	
連携機関		レベル	中級	講義日時	土曜日 10:00～11:30、11:50～13:20	講義場所	お茶の水女子大学
科目概要	環境汚染や健康被害を防止し、自然環境や地球環境を保全するために進められている環境政策について、環境問題の原因やその社会的背景・歴史の変遷とともに、基本的考え方及び全体像を概説する。また、水環境、大気環境、化学物質、廃棄物・リサイクル、環境アセスメントなどの分野ごとに、問題の現状、対策の枠組み、今後の課題などについて概説し、これからの対策をどのように進めていけばよいかを考えていく。さらに、その中で、具体的な個別の環境問題の背景及び解決法について、様々な角度から考察する。						

サブタイトル	No.	講義名	講義概要	講義日	教室	講師名	所属
環境政策の全体像	1	環境問題と環境政策の歴史	産業公害から都市生活型公害を経て地球環境問題に至る環境問題の歴史を振り返り、その中で成立してきた環境政策の基本的考え方や施策の変遷を概説する。(冒頭に全体の進め方を説明する。)	10月11日		早水輝好	環境省水・大気環境局
	2	環境基本法と環境政策の基本的枠組み	我が国の環境政策の基本となる環境基本法の内容を概説するとともに、現在の環境政策や環境行政の基本的な枠組みと環境行政を担う行政組織を紹介する。また、環境政策の基本的な方向性を定めている環境基本計画及び21世紀環境立国戦略の骨格を紹介する。				
水環境等の保全	3	環境基準と水質汚濁防止法	水環境保全施策の基本となる環境基準の設定の考え方、設定状況を解説するとともに、環境基準の達成状況等を通じて、水環境の現状を紹介する。また、水質汚濁の原因と対策について概観した上で、対策の基本となる水質汚濁防止法について、規制の体系、排水規制と排水基準、生活排水対策、常時監視等の内容につき解説する。	10月18日	共通講義棟 1号館301号室	山本昌宏	環境省総合環境政策局
	4	閉鎖性水域対策と土壌・地下水の保全	水環境保全施策の中で特に近年課題となっている閉鎖性水域(海域、湖沼)の保全施策と地下水・土壌の保全施策を解説する。閉鎖性水域については、総量規制制度を中心とした関連施策と今後の課題について解説し、湖沼については、湖沼法に基づく施策の考え方について解説する。また、土壌汚染については、土壌汚染対策法に基づく対策に加え、ダイオキシン対策等についても紹介する。				
大気環境の保全	5	大気環境概論	足尾銅山から越境大気汚染問題まで、大気汚染問題の歴史について概観するとともに、大気環境保全施策の基本となる環境基準の法的な意義、政策上の意味、設定手法、近年における達成状況等について解説する。	11月1日		相澤寛史	環境省水・大気環境局
	6	固定発生源対策及び移動発生源対策	大気汚染防止法に基づく工場等の固定発生源からの排出規制、有害大気汚染物質対策、揮発性有機化合物対策、自動車排出ガス等の移動発生源の規制の制度と手法について解説する。また、健康被害の補償・予防、国際的な動向にも触れる。				
化学物質対策	7	化学物質の環境リスク評価	化学物質環境対策の基本となる科学的なリスク評価と予防的アプローチ等の考え方を紹介し、化学物質の環境リスクを評価するための有害性試験、環境モニタリング、曝露予測の手法と我が国における実施状況について解説する。	11月8日	人間文化創成 科学研究科全 学共用研究棟 607号室	戸田英作	環境省環境保健部
	8	化学物質対策の国際的・国内的枠組み	化学物質管理に関する国際条約や国際機関の活動等の動向と、我が国における化学物質審査規制法、化学物質排出把握管理促進法等の制度について解説する。特に、欧州のREACH等の新たな動きに触れ、こうした状況を踏まえた我が国の制度の在り方について論ずる。				
自然環境の保全	9	自然環境の現状と自然環境保全施策の枠組み	我が国の自然環境の現状や推移について自然環境保全基礎調査やモニタリングサイト1000などの結果をもとに紹介するとともに、自然環境保全施策の基本的枠組み(各種法制度)について概説する。	11月15日	共通講義棟 3号館202号室	河野通治	環境省自然環境局
	10	野生生物の保護	生物多様性の保全と持続可能な利用に関する基本的考え方と政府の施策を示した「第3次生物多様性国家戦略」を中心に、生物多様性の保全、外来生物対策など、近年次第に充実してきた野生生物保護のための様々な取組について解説する。				
地球環境の保全	11	地球温暖化対策	近年最も重要な課題となっている地球温暖化対策について、温暖化の影響等に関する科学的知見、国際的な動向を紹介するとともに、京都議定書の削減目標達成のための国内施策及び将来の低炭素社会構築に向けた取組を解説する。	11月22日	共通講義棟 1号館301号室	高橋康夫	環境省地球環境局
	12	その他の地球環境保全対策	オゾン層の保護、酸性雨対策、森林・砂漠化対策、海洋汚染・漂着ごみ対策、開発途上国に対する環境協力など、様々な地球環境保全対策の現状と課題について解説する。				
廃棄物・リサイクル対策	13	廃棄物の適正処理	家庭から排出されるごみ(一般廃棄物)や工場などから排出される産業廃棄物を適正処理するための基本的な仕組みを概説するとともに、産業廃棄物の排出者責任の強化、不法投棄対策・PCB等有害物質対策の強化など最近の動向について解説する。	11月29日	人間文化創成 科学研究科全 学共用研究棟 607号室	関谷毅史	環境省廃棄物・リサイクル対策部
	14	循環型社会の構築	循環型社会の構築のための基本的考え方と、そのために導入されている様々なリサイクル法制度について概説する。また、地域における循環型社会づくりの取組事例を紹介するとともに、国際的な循環型社会の構築に向けた我が国の取組を解説する。				
環境アセスメント	15	環境アセスメントの制度と運用	大規模な公共事業などを実施する前に環境への影響について調査・予測・評価を行い、住民などの意見を聴取し、事業計画に環境への適切な配慮を盛り込んでいく環境アセスメントについて、制度の歴史・骨格及び様々な事例を解説し、よりよい進め方について考察する。	12月6日	共通講義棟 1号館301号室	早水輝好	環境省水・大気環境局

2008/7/29 教室の記載。2008/8/4 早水講師、山本講師の所属変更。11月15日の関谷講師の講義と11月29日の候の講師の講義の入れ替え。